

第1回就労選択支援「事例検討会」の報告と今後の展望について

令和7年7月に実施した就労選択支援創設に向けた事例検討会について、以下のとおり報告する。事例検討会では、就労選択支援のイメージを膨らませることや地域資源を知ることが目的に開催し、さまざまなサービスの事業所が参加することで、より多角的な視点で事例を検討した。

1 実施日等

（内訳）

開催日：令和7年7月4日（金）

15：00～17：00

参加者数：52名

- ・就労移行支援事業所：9名
- ・就労継続支援A事業所：1名
- ・就労継続支援B型事業所：13名
- ・相談支援事業所：6名
- ・特別支援学校：4名
- ・ハート・ワーク：3名
- ・ワーキング・トライ：2名
- ・その他(区職員、講師等)：14名

2 事例検討内容

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・就労選択支援のイメージを膨らませる ・地域資源を知る
講師	内閣官房 内閣総務官室 併任 内閣人事局 上席障害者雇用専門支援員 加藤 公一 氏
事例検討	(1) 7人×6グループ（A～Fグループ）に分かれ事例検討 (2) 事例検討後、グループごとに発表 (3) 講師の解説・就労選択支援のポイント
就労選択支援の ポイント (講師解説)	(1) 就労選択支援事業所へ提供すべき情報 ・最初の一次支援窓口はどこの事業所もなり得る。そこで受付けた情報をどういった形（共通の受付シート等）で就労選択支援事業所につなぐのかが重要なポイント。 (2) アセスメントツールと環境設定 ・国の情報では未知数のアセスメント項目が提供されているがそれを全部やらないといけないわけではない。 就労選択支援はアセスメントの場や手段を自由に選択できる。そのため、本人の状況に合ったアセスメントの環境設定が重要なポイント。 (3) アセスメント結果の本人・家族へのフィードバックとケース会議 ・アセスメントを通じて、本人が希望するサービスにどんなメリット・デメリットがあるのか、中立性を保ち、先の見通しを持てるようなフィードバック（次の地域資源につなげる等）の示し方が重要なポイント。

3 参加者の感想

- ・ アセスメントツールを作って、その通り（示された手順通り）にやるというものではないということを再認識することができた。
- ・ 就労選択支援事業所が見通しを提示したうえでアセスメントしないと、示された手順通りのアセスメントになってしまうのではないかと感じた。
- ・ 普段は関わることのない様々な事業所との関わりをもつことで、物事の見方（視点）の違いを理解することができた。
- ・ 今後の事例検討会等で、実際にどのように区として運用していくのか示してほしい。

4 事務局の感想

- ・ さまざまな事業所に参加していただくことで、より活発な意見交換の場になっていた。
- ・ 当初予定していた開催時間を超過したため、今後、意見交換や制度説明の時間の見直しが必要と感じた。
- ・ 就労選択支援事業開始にあたって、事業所が感じている課題を把握する機会となった。

5 今後の展望

就労選択支援サービスは令和7年10月から開始されるが、国では現状のやり方も当面残す方向で検討している。今後、サービス開始後も試行錯誤しながらの運用が想定される。

板橋区では、令和7年10月から順次、指定を受けた就労選択支援事業所を中心に、新規の就B利用希望者を対象に試験的に実施する。その結果や進捗を、当部会等で情報共有、ブラッシュアップを図り、課題への対応や各機関の役割を整理して、令和8年度から本格稼働をめざす。

【サービス開始に向けた今後の流れ(予定)】

令和7年 8月 ～ 9月 : 運用の流れやアセスメントシート等の整理

令和7年10月～12月: 区内就労支援機関から利用希望者を抽出し、試行的に実施

令和8年 1月 ～ 2月 : 当部会・関係連絡会等でのケース報告

※令和8年4月以降、地域資源の実情やニーズを把握した上で、サービスを活用・運用する。

【サービス実施を予定している事業所】

- ・ ココレポート新板橋駅前 office(移行)
- ・ COCOCARA 板橋(移行)
- ・ チャレンジド板橋区役所前(移行)
- ・ Beech(B 型)